

特別展 岡山市立オリエント美術館所蔵

# オリエントのガラス

主催 渋谷区立松濤美術館  
岡山市立オリエント美術館

会期 昭和62年8月11日(火)  
~9月27日(日)



貼付文把手付水差  
イラン 8~9世紀  
高さ15cm

渋谷区立松濤美術館

# オリエントのガラス

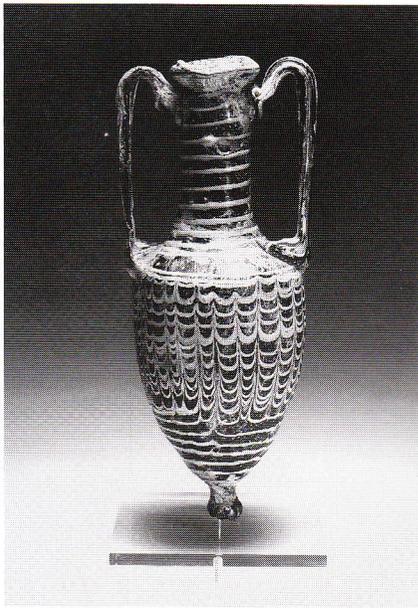
## 〔ガラスの誕生〕

ガラスはガラス質の釉薬が陶器などの施釉製品から離れて、独自に形態を持ったものです。

最古のガラス製品は、紀元前三千年紀後半のメソポタミアの遺跡から出土しています。ガラス容器の製作は、メソポタミアでは前16世紀頃開始され、前15世紀にはエジプトへ伝えられました。その後、前一千紀後半までイラク、イラン、環地中海域でガラスの製作が盛んになりました。

## 〔コア・ガラス〕

この当時のガラス容器の製作技法は、コア・ガラスと呼ばれる製作方法が中心でした。この技法は、金属棒を芯にして、中型を作り、加熱した中型の周りに溶けた色ガラスをつけて器体をつくり、冷却後、棒を抜き内部の芯を掻き出して仕上げる方法です。コア・ガラス技法は、比較的簡便だった為、吹きガラスが製作される以前のガラス技法では最もよく用いられました。他に鑄造ガラスやモザイクガラスの技法も開発されています。

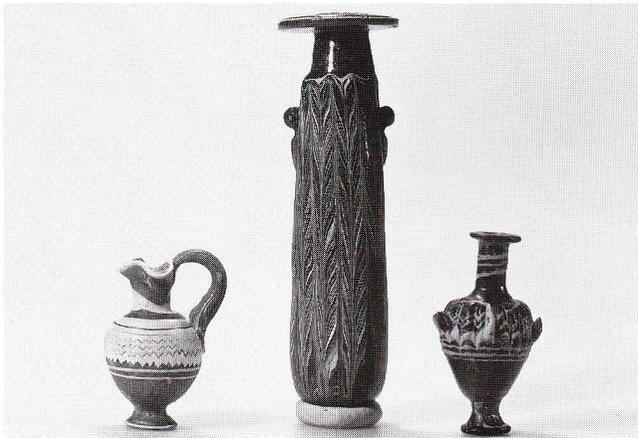


▲コア・ガラス アンフォリスコス  
東部地中海地域（前2～前1世紀）

## 〔吹きガラス〕

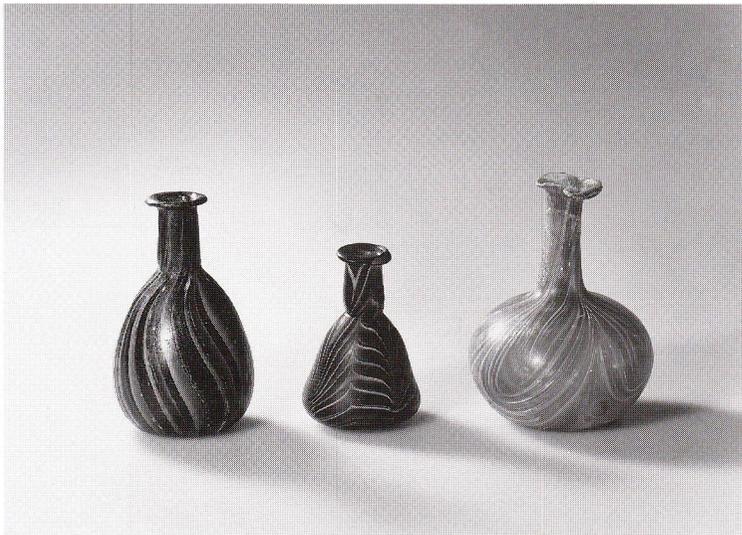
ローマ時代、前1世紀に、ローマ領シリアで、吹きガラスの技法が開発されました。この技法には、型吹きと宙吹きの二通りがあります。ローマ時代初期には、鑄型の中に、溶けたガラスを吹き込んで成形する型吹きガラスが中心でした。銘文や人や神々の像、動植物などの浮出装飾で飾られた容器が数多く作られました。

宙吹きガラス技法は、ガラスや鉄製のパイプの先に溶けたガラスをつけ、息を吹き込んで自由に成形し、ポンテ（受け竿）を用いて切断し成形する方法です。この技法が確立され



◀ コア・ガラス各種  
左から  
ウンゲントリア、  
アラバストロン、  
オイノコエ  
東部地中海地域  
(前1千年紀  
後半)

▼ 左から組色瓶、紫色瓶、飴色瓶 シリア（1世紀前半）



▼ 人面装飾瓶など型吹きガラス瓶各種 シリア



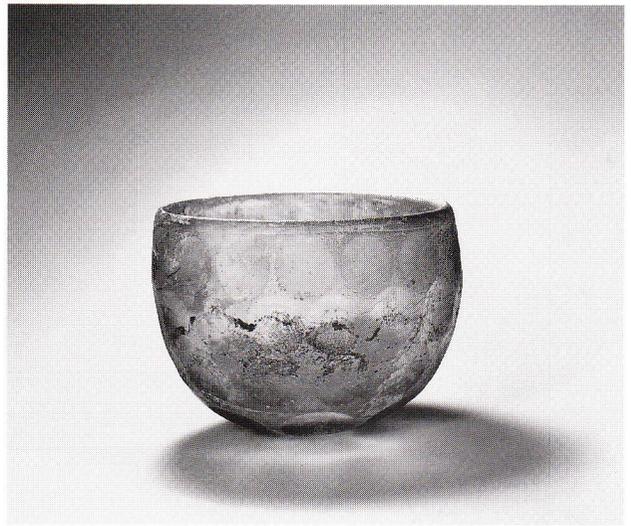
ると、比較的大きなガラス容器の大量生産が可能になり、1世紀後半のローマ帝国領内では、日用品のガラスが銅貨一枚で買えるほど一般化したといわれています。更に、ガラスの色も無色透明に近いものが生みだされるようになり、杯、碗、皿、鉢に加えて水瓶、水差しも作られ、蔵骨器や窓ガラスまでも製作されるようになりました。

〔ガラスの伝播と広がり〕

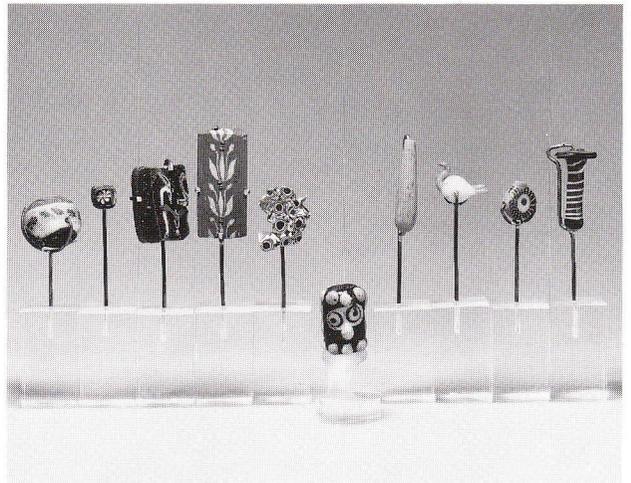
地中海世界を中心とした吹きガラスの技法は、周辺世界に広がり、ローマン・ガラス製品は、ローマ帝国の広大な交易網にのって、ドイツ、フランスはもとより、北欧、東欧、黒海沿岸、インド、アフガニスタン、中国にまで、もたらされるようになりました。この傾向は、ローマン・ガラスの伝統を引きついでササン朝ペルシャやイスラム時代のガラスについても同様でした。ササン朝時代後期に特有な円形、二重円形、浮出円形などの切子（カッティング）を表面に施した厚手の碗は、正倉院伝世品を始め日本各地に遺品が見い出され、遙かシルクロードを通じて運ばれてきたことが分ります。このように、ヨーロッパへ伝えられたローマン・ガラスの伝統は、ステンドグラスなどに受けつがれて中世を生き延び、一方、イスラム世界では、多種多様なガラス製品が作られて、共に近世ガラスの誕生を準備したのです。

岡山市立オリエント美術館は、岡山学園理事長故安原真二郎氏が、情熱を傾けて蒐集されたオリエントの美術、考古遺品の岡山市に対する寄贈を契機に設立されました。現在、約3000点の作品を所蔵しています。

本展は、岡山市立オリエント美術館の所蔵品のなかから、オリエントのガラス容器、製品150余点を選び、陳列いたします。



▲円形切子碗 イラン（6世紀）

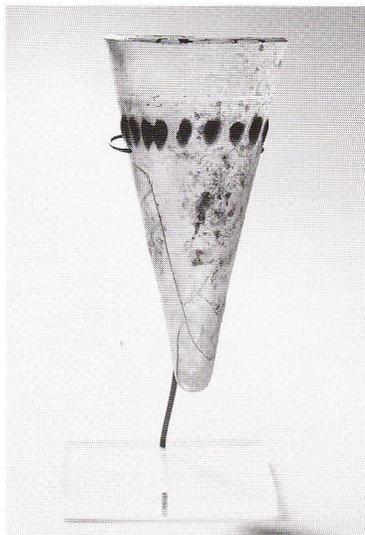


▲モザイク・ガラス各種 左列プロトマイオス王朝 右列第18王朝

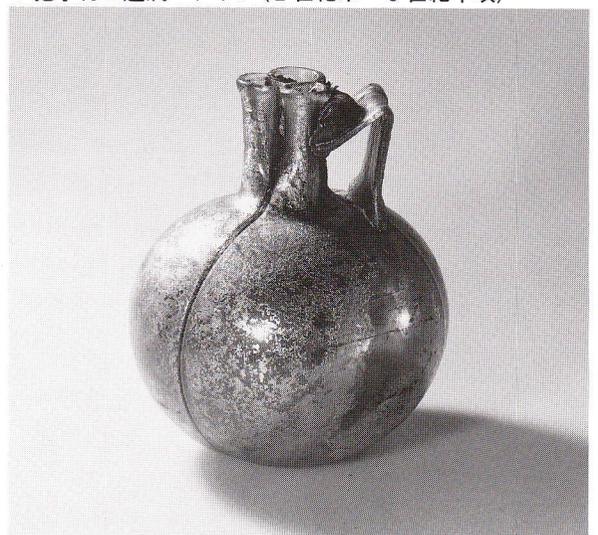
1世紀後半～2世紀



▼斑点ランプ イラン又はシリア（4世紀）



▼把手付三連瓶 シリア（2世紀末～3世紀中頃）



■講演会

8月15日(土) 午後2:00~4:00

「ガラスを通して見た東西交渉」

古代オリエント博物館館長  
江上 波夫氏

9月12日(土) 午後2:00~4:00

「古代オリエントのガラスについて」

岡山市立オリエント美術館学芸員  
谷 一 尚氏

■美術相談

美術作家を招き、皆さんの作品を見ながら、技術指導や相談を行います。美術史・美術図書の相談にも応じます。(油絵指導をご希望の方は絵の具、筆などをお持ちください。)

★相談日時・相談員

8月16日(日) 午後1:00~4:00

洋画家 西島 俊親氏 / 日本画家 荒井 朝吉氏

9月6日(日) 午後1:00~4:00

洋画家 遠藤 原三氏 / 日本画家 戸田 康一氏

★申込方法 事前に電話で相談内容をお知らせください。

★料 金 入館料のみ

◎美術映画会

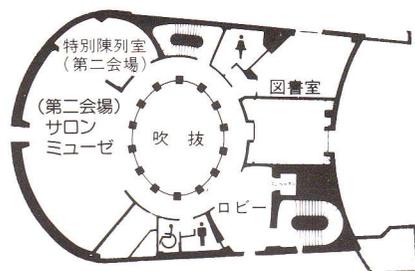
8月30日(日) ●ペルシャの栄光・ペルセポリス  
午後2:00~3:00 - 廃虚にしのびる古代史の結論 -

●文明の十字路・ササン朝ペルシャ  
- 岩壁に刻まれたモニュメント -

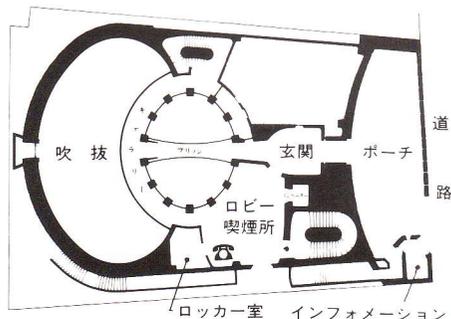
9月20日(日) ●クロード・モネ 印象派とは - I  
午後2:00~3:00 - 眼に呪われた画家 -

●クロード・モネ 印象派とは - II  
- 画家は光に失明する -

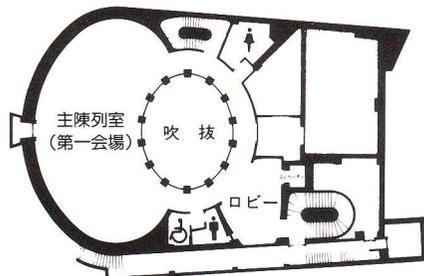
2階



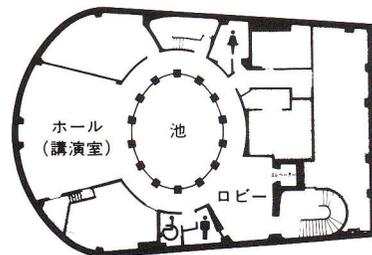
1階



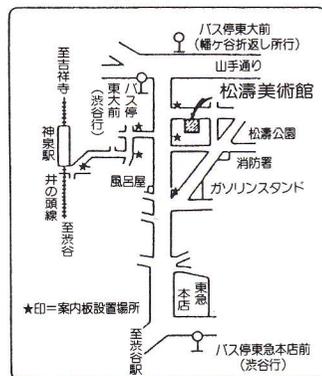
地下1階



地下2階



案内図



- 会 期 昭和62年8月11日(火)~9月27日(日)
- 休 館 日 第2日曜日及び他の週の月曜日 祝日の翌日  
8月 / 17日(月)・24日(月)・31日(月)  
9月 / 7日(月)・13日(日)・16日(水)・21日(月)・24日(木)
- 開館時間 午前9時~午後5時 (ただし入館は4時30分まで)
- 入 館 料

	個人	団体(20人以上)
一 般	200円	160円
小中学生	100円	80円